

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105644
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム あいじゅ
所在地	松山市東方町甲814-3
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 22 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 9 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景の中に住まいがあり、裏には川が流れ春には桜並木、小鳥やハト、たまにきじ鳥がきたり、静かでとてもいい環境の中にあります。
午前中のリハビリ体操・歌・朗読・脳トレ歩行練習は少しでも自立支援に向けずっと続けています。
ホーム内では出来ることはしていただき、少しでも一人一人の役割が持てるよう支援を行っています。
みなみ保育園との交流も継続し、敬老会・クリスマス会には保育園の方に行き、園児と楽しくふれあうことが出来ています。
その人らしさを大切に、安心して暮らしていただけるように支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな環境にある事業所の玄関では、手入れの行き届いた季節の花々が出迎えてくれる。事業所には法人本部や介護老人福祉施設、老人保健施設等を併設されており、緊急時には相互の協力体制が築かれている。管理者と職員は和やかな良好な関係で、利用者へのサービス提供時や職員同士の会話する姿から笑顔が絶えない様子を伺うことができる。利用者の希望をまとめた「想いマップ」を作成し、一人ひとりの思いに沿った個別支援を実践している。また、利用者はゆったりと穏やかな生活の中にも、食事の下準備や片付け等の役割や目標を持って暮らしている。また、隣接している法人本部や介護老人福祉施設等の老朽化により、近々移転が計画されており、これまでの実績等を活かし新たな場所での高齢者福祉の推進を期待することができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あいじゅ

(ユニット名) 寿ユニット

記入者(管理者)
氏名 大栄 幸枝

評価完了日 平成 26 年 8 月 22 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員同士で話し合い、尊厳・地域との交流、安心した暮らしが遅れることを目標にし、少しでも地域の人たちとのふれあいを大切に、笑顔のある暮らしが送れるよう支援を行っている	
			(外部評価) 事業所独自の理念を職員間で話し合い作成しており、大切に受け継いでいる。理念のほか、毎年事業所の目標も作成している。事業所内に掲示している理念等を職員各自で確認するなど、理念に沿った運営ができているか振り返りをする機会がある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 荏原公民館での活動、みなみ保育園の園児来訪、敬老会に参加しながら交流を深めている。お誕生会には地域の方とカラオケを楽しみ、なじみの関係が築かれていけるよう支援を行っている。	
			(外部評価) 併設の介護老人福祉施設等と合同で行事を開催しており、地域住民と一緒にカラオケを楽しむなど、顔馴染みの関係もできてきている。開設時から近隣の保育園児の訪問など行き来があり、クリスマス会などに参加することを利用者は楽しみにしている。馴染みのお好み焼き店等の閉店や、利用者の高齢化に伴い継続してきた美化運動への参加が困難になってきたが、事業所で喫茶を開催し、地域住民を招待して交流を図るなど、できることを工夫しながら地域の一員としての活動をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 推進会で、みなみ保育園との交流の様子をみていただいたり認知症、認知症予防について講師の先生を招いて勉強会と一緒に参加していただいたり、介護予防教室にも積極的に参加し、一人でも多くの人に理解していただくよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催している。近況報告や取組等を報告している。テーマにそって話し合い、意見やアドバイスが得られ、職員にも周知徹底し、サービスの向上につなげている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員、保育園長、地域住民等に参加協力を得て開催している。会議では事業所の活動などの報告をするほか、認知症や看取りなど専門知識をテーマとした勉強会を開催したり、地域との交流から関係が深まった官司に講話をしてもらったりするなど、ユニークな取組みを楽しみにしている参加者もいる。参加者から毎回貴重な意見が聞かれ、事業所の運営に反映したり職員の励みに繋がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会や事業所の担当者会議等に参加していただき、情報を共有できるよう努めている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所での利用者の実情を知ってもらうほか、サービス内容や感染症などのアドバイスももらっている。運営上の相談や介護保険の更新手続き等に窓口を訪れ、日頃から良好な協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) みんなで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、出入口は出来るだけ開放しているが、見守りが不十分な時のみ閉めている。	
			(外部評価) 現在、身体拘束の対象となるケースはなく、職員間で意識統一して、身体拘束をしないケアを実践している。身体拘束マニュアルを作成し、法人全体で身体拘束などの行為を正しく理解するための勉強会を実施し、特に利用者へきつい声かけにならないよう配慮した支援をしている。日中玄関は開放し、玄関ホールと共用部間のセンサーを活用しながら利用者が安心安全に生活を送れるよう見守りをして対応している。ユニット間は自由に行き来することができ、利用者の自由な暮らしを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や勉強会等に参加し一人ひとりが正しく理解している。 職員同士、言葉での虐待になっていないか話し合い、注意し合いよいケアが出来るよう努力している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者の中に青年後見人制度を利用されている人もいるので、包括支援センターの方にお話し、推進会の時にみんなで勉強会を開き、少しでも理解できるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前に一度見学して頂き、気に入っていただいているから契約書・重要事項について説明を行い、理解・納得していただいた上で契約している。また、改定等の際はその都度説明し文章で同意書を頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関ホールには苦情箱を設置している。苦情が寄せられた場合には、マニュアルに沿って速やかに対応、回答を行っている。法人全体としても要望苦情解決委員会を開催し、頂いた要望苦情が反映できるよう努めている。面会時などに意見や要望を聞くようにしている。	
			(外部評価) 事業所内と外部に苦情受付窓口があることを入居時に利用者や家族に書面等で説明している。法人として利用者等の「苦情に関する委員会」を設けて、必要に応じて話し合いをしている。日常の生活の中、利用者から意見や要望を聞いている。また、利用者の日常生活の様子を便りや電話で伝えたり、面会時等の機会を利用して意見を聞くよう努めている。日頃から家族等から意見を言ってもらいやすい良好な関係づくりを大切にしている。家族からは利用者の健康維持や機能向上への要望が出され、利用者の個別ケアやレクリエーションに身体機能向上のためのリハビリ体操を取り入れるなど、迅速に反映している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会で職員の意見を聞き、必要があれば主任会等で施設全体で話し合えるような仕組みになっている。	
			(外部評価) 管理者は夜勤を含め職員と一緒に業務をしており、職員とは日頃から気軽に意見や提案を伝えやすい関係ができています。管理者は職員の気になることや不安なことを察知し声かけするなど、職員一人ひとりの現状をよく理解している。また、職員同士で気になった場合は話し合いをしている。管理者は研修等の学びの機会を設けたり、勤務形態や勤務地など職員の希望を考慮し、職員がやりがいをもって働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課制度に従い、評価を行い一人一人の個性や能力の把握に努めると同時に、職員の処遇の改善に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内研修や、外部研修への参加を促し、研修後は事業所内において伝達研修を実施するよう取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 久谷地区のグループホーム連絡会での勉強会を行い、サービスに活かせるよう努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学の段階からゆっくと話し合いが出来るよう時間を持ち、徐々に本人の思いや不安を汲み取れるよう努めている。安心して暮らせるよう寄り添いコミュニケーションを大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族様との連絡を密にすることにより、家族の思い、不安要望を聞き出し、それに沿って職員が尊厳を守りながらいい関係が出来るよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人、家族様の希望を聞き法人全体、他業種の方々の意見を聞き、様々なサービスの選択肢を提供し一緒に考え対応できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) おやつ作り、洗濯物干し・たたみ、お米洗い等して頂き少しでも役割が持てるよう支援を行っている。一緒にすることにより学ぶことも多い、一緒に外に食事に行ったり、喫茶店、ドライブ等出かけられるよう支援を行っています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 共同作品展と一緒に見に行かれたり、推進会や夏祭りに参加していただけるよう案内し、出来るだけ家族との絆がきれないよう支援を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の催し物や行事に出来るだけ参加したり、地域の方に遊びに来ていただいたりして、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、ご利用者様に希望を聞きながら、出来る限り実現出来るよう支援を行っている。 (外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係や場所を聞き、把握している。把握した内容や行きたい場所などは「あなたの夢を叶えます」という取組みにより、娘に会いに行ったり自宅に帰ったりするなど利用者の希望を叶えている。また、併設の施設との合同行事などを通じて、利用者同士や地域住民との新たな馴染みの関係もできてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人一人が食堂やリビングで安心して座る場所が決まっています、トラブルになることはない。ティータイムの時は音楽やお話ししながら良い時間を過ごすことが出来ています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後は電話で話したり、推進会にも地域の方で参加していただき一緒にグループホームを盛り上げてもらっています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思いマップを作成し、職員間で共有している。本人の思いを大切にシプランに取り入れている。 (外部評価) 思いや意向を入居時に利用者や家族から聞き、詳細に把握している。把握した内容や新たに得た情報を利用者一人ひとりの「思いマップ」にまとめ、利用者や家族、職員の間で共有し、具体的な目標や課題を介護計画に反映し、利用者本位のサービス提供に努めている。思いを伝えることが難しい利用者には、何より安楽と安心を大切に考え、おだやかに過ごせることや利用者らしく生活が送れるよう、職員間で意見を出し合いながら検討し、一人ひとりの気持ちに沿えるサービス提供に真剣に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面談時に本人・家族様に生活歴や暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を聞いたり利用していた事業所からの情報提供をお願いし、共有している。少しでも多く情報を把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人利用者様と関わる中で心身状態、精神状態を24時間シートに書き入れ、職員同士で情報を共有している。毎日バイタルチェックし健康面にも気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 一人一人の思いマップを作成し、そこからプランにつなげている。プランの評価も1ヶ月毎に行い各ユニットで話あっている。本人の希望に沿ったプランを作成して実施している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望を反映し、職員の意見を取り入れ、利用者毎の担当者を中心に管理者と話し合い、介護計画を作成している。事業所独自の「思いマップ」にまとめられた課題は介護計画へ反映し、利用者や家族の思いに沿った分かりやすい計画となっている。また、24時間シートを使用し、日々実施したサービス内容や利用者の気持ちを記入できるなど、現状が詳細に把握できる記録となっており、根拠あるモニタリングへ繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) センター方式24時間シートを使って日々の様子や精神状態を記録している。職員間で共有しながらプランの評価も1ヶ月毎に行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外出や医療機関の受診等は、ご家族様の状況に合わせて必要な場合はホームの方で対応できるよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣のみなみ保育園との交流、遺跡めぐり、荏原公民館活動への参加等、一人でも多く地域に出かけ、地域の事を少しでも理解し、楽しむことが出来るよう支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時にかかりつけ医の希望を聞き、本人や家族の希望を大 切にしている。かかりつけ医へはホームの看護師から日ごろ の状態の報告をするとともに、かかりつけ医の指示が適切に 実践できるよう連携を取っている。 (外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を継続して受診することがで きる。協力医と連携が取れており、緊急時にも迅速に柔軟に 対応できることから、協力医をかかりつけ医としている利用 者も多い。受診は家族の協力を得るほか、職員が受診介助す る支援もしている。専門医は家族の協力を得て受診してい る。協力医には利用者の日々の様子を報告し指示を仰ぐな ど、健康管理もできている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員はホームの看護師・法人内の他事業所の看護師と連 携をとりながら健康管理を行っている。(24時間体制が取れ ている)何かあれば主治医に相談し早めの受診をするよう支 援を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院に面会に行ったり、家族の方より状態の連絡が ある。退院が近くなると病院に連絡を取り合っている。本人 にもみんな待っていることを伝え安心して入院生活が送れ るよう支援を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時にホームでのターミナルケアについて説明した上で、 ご本人・ご家族の意向に添った支援をしている。主治医と連 携をし、ご家族に悔いが残らぬよう努めている。 (外部評価) 「看取りに関する指針」を整備し、事業所として対応できる 内容を入居時に利用者や家族等に説明している。利用者の状 態に応じて、医師や家族等と話し合いを繰り返し、意向を確 認している。事業所では医療機関と併施設設などの協力を得 て、チーム体制で看取り支援を経験している。また、看取り 等の勉強会も実施し、職員の不安の軽減を図ったり、知識や サービスの向上に努めたりしている。管理者は終末期ケアの 重要性を強く認識しており、経験を活かしたチーム体制での 支援の強化に今後も取り組んでいく予定である。	チーム体制で利用者や家族の意向に沿う支援の重要性 を再度認識すると共に、看取り支援を実施する中で職 員の不安や疑問点等の新たな気づきを職員間で話し合 い、今後の看取り支援に経験を活かすことを期待した い。また、看取りの知識など職員のスキルが向上でき るような勉強会を継続して実施することを期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年法人内で緊急時の処置の方法を消防署の指導を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回併設の事業所と一緒に防火避難訓練を行っている。 H26.5.12にグループホームでの夜間を想定した通報・避難訓練を消防署立会いのもと実施をした。毎月1日に通報訓練を実施している。	
			(外部評価) 年2回、併設している施設と一緒に消防署の協力を得て、夜間などを想定した防火非難訓練を実施している。毎月、通報訓練も実施している。災害発生時には併設の施設と相互の協力体制が取れているほか、地域住民を含めた緊急連絡網を整備し、協力体制を築いている。職員は利用者が安心安全な生活が送れるよう危機感をもって災害対策に取り組んでいる。また、法人として備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ホームの理念にも掲げ、一人一人の尊厳を守り、暖かい声かけを心がけている。居室やトイレに入る時はノックを行ったり、トイレには「使用中」札をかけたたりしている。入浴時も一人ずつ入っていただいている。	
			(外部評価) 「尊厳」という言葉を理念に掲げ、法人内では年間計画を立て接遇などの研修を実施しており、職員は理解して尊厳を意識した支援をしている。利用者への言葉づかいなど気になる対応は、その都度職員間で注意し合っている。特に入浴やトイレの介助時など、利用者の羞恥心に配慮した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で出来るだけ本人の気持ちを大切にしている。声えかけにも決め付けるような言葉かけをせず、あくまでも納得して決めていただくように支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースを大切にしている。食事の後ベッドで休みたい人、テレビ・本を読まれる人、その人の気持ちを大切にしている。出かけるときは家族に協力をお願いすることもある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 移動美容室には、ほとんどの人が利用している。外出時の服や帽子は、自分で選ばれたり職員と一緒に選んでいる。毎朝自分で化粧をされたり、アクセサリを身につけられる人もおられます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は併設の施設の厨房で用意していますが、ご飯・カレー・味噌汁・おやつ作りはホームの方で一緒に作っています。盛り付けや片付けなどは出来る方には手伝っていただき、少しでも役割が持てるよう支援を行っています。気分転換も兼ねて外食にも出かけます。	
			(外部評価) 法人の管理栄養士が献立を作成し、法人の厨房で一緒に調理している。ご飯や汁物、おやつ作りなどは事業所内で利用者と一緒に調理している。利用者の状態に合わせ、きざみ食などにする対応は事業所内で行っている。調査日には利用者が生き生きとした表情でおやつの下準備をする姿が見られた。職員は食事の後片付けなど利用者のできることに着目し、役割を持ってもらい、やりがいに繋がる支援を心がけている。また、利用者の希望や気分転換を兼ねて、回転寿司などの外食を楽しめる支援も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で個々の食事量、水分量を把握している。食事量が減った人には食事形態を変えたり、主治医、管理栄養士、家族様と相談しながらラコール等で対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時、毎食後の口腔ケアを行い、終わったら歯ブラシ・コップを良く洗浄し乾燥機にかけ感染予防に努めている。介助の必要な人は支援を行っている。歯や入れ歯の調子が悪いときは訪問歯科を利用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄リズムを把握し、声かけを行っている。気持ちの良い排泄がトイレで行え、自立に向け支援を行っている	
			(外部評価) 排泄時間や量、水分、食事量等を記録し、利用者の状態や排泄のリズムを把握している。利用者の訴えや表情、様子を見て、さりげなく声をかけて誘導し、トイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。オムツを使用している利用者にも体調を配慮しながらトイレで排泄してもらうよう努めている。職員は利用者の状態を把握し、一人ひとりに合わせた排泄支援を行い、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) チェック表で排便を確認している。排便を促すため、水分補給（1500cc以上）リズム体操、歩行練習に取り組んでいる。おやつにふかし芋等も取り入れている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 健康状態を把握しながら行っている。風呂場で職員が一人見守り介助を行い、ゆっくりと入ってもらっている。本人の希望も聞きながら支援を行っている。	
			(外部評価) ユニット毎の個別浴槽を使用し、週2回を基本として、利用者の希望や必要に応じて入浴できるよう支援している。夏場など汗をかきやすい時期には入浴回数を増やし、気持ち良く入浴してもらい清潔を保っている。入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、タイミングや声かけなど工夫している。利用者の状態に合わせた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間はほとんどの方が良眠されている。本人の希望で昼寝をしたい方は休んでもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬・飲み忘れしないように2人でチェックをし、本人にも確認をしてもらい慎重に行っている。薬の変更や気をつけること等は申し送りノートを利用し周知徹底をしている。処方箋もいつでも見られるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の生活の中で自分で出来ることはしていただき、少しでも自分の役割が持てるよう支援を行っている。外食・喫茶店・ドライブ等少しでも外出の機会を多くとり、気分転換が図れるよう支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の機会を出来るだけ多く取り入れたり、家族様と一緒に家に帰られたり食事に行けるよう支援を行っている。「あなたの夢を叶えます」を目標に本人の言ってみたい所、逢いたい人を聞き、叶えられるよう支援を行っている。ご家族様の協力もあり、一つ一つ実現している。 (外部評価) 月2回外出できるよう計画を立て、併設施設から福祉車両や運転手を手配し、外出できるよう支援している。カフェや回転寿司に出かけたり、季節に応じてコスモスや彼岸花などを見に行けるよう支援している。夏場や冬場の気候の厳しい場合には、事業所で喫茶を開催するなど地域住民と交流する工夫をしている。「あなたの夢を叶えます」という利用者一人ひとりの行きたい場所などを叶える取組みは継続して実施しており、娘に会いに行ったり自宅に帰ったりするなど、利用者の希望に沿った支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお小遣いを所持し、一緒に買物に行き支払いが出来るよう支援を行っている。家族様と話し合い、こちらで預かっている方もおられますが、可能な限り自分で支払いが出来るよう支援を行っています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望で家族に電話をかけられる場合は支援を行います。手紙を書かれる人は少なくなりましたが、少しでもやりとりができるように支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が集まるリビングにはソファを用意し、みんなでテレビを観たり、お話が出来るようになっている。食堂にはちぎり絵・工作等で季節感を取り入れている。西側にはへちまのグリーンカーテンで日よけを行っている。エアコンで温度調整を行っている。 (外部評価) 玄関前で手入れの行き届いた季節の花々が出迎えてくれ、温かみを感じられ訪れやすい雰囲気が感じられる。前年収穫したへちまの種を育て、リビングの大きな窓にグリーンカーテンを作り、季節の楽しみとして話題にしている。共用空間は清掃が行き届き、近隣の自然豊かな景色を見ながら、ゆったりとくつろぎながら気持ち良く生活を送ることができる。また、座る場所は利用者同士の関係性や混乱が生じないよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂、リビングソファもそれぞれ自分の安心できる居場所があり、テレビを観たりお話をされたり家族様との会話の居場所になっている。食堂の椅子に座って静かに音楽を聴かれている方もおられる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで使っていたベッド・布団・タンス・家族の写真等を持ち込んでいただき、家庭的で馴染みの物があることで安心して暮らしていただけるよう支援を行っている。 (外部評価) 居室には利用者の思い入れのあるものを持ち込んでもらえるよう家族等に声をかけており、使い慣れた寝具や生活用品を自由に持ち込み、落ち着いて生活を送ることができている。職員が衣替えや清掃を行い、清潔感が保たれすっきりとした居室となっている。利用者や家族の了承が得られた居室には、思いを表記した「想いマップ」を作成して掲示しており、家族と思いを共有しながら生き生きとした生活を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者様には出来ることはして頂くよう声かけを行っている。建物内部は手すりが有り、段差をなくしているので、安全に歩行することが出来ている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105644
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム あいじゆ
所在地	松山市東方町甲814-3
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 22 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 9 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景の中に住まいがあり、裏には川が流れ春には桜並木、小鳥やハト、たまにきじ鳥がきたり、静かでとてもいい環境の中にあります。
午前中のリハビリ体操・歌・朗読・脳トレ歩行練習は少しでも自立支援に向けずっと続けています。
ホーム内では出来ることはしていただき、少しでも一人一人の役割が持てるよう支援を行っています。
みなみ保育園との交流も継続し、敬老会・クリスマス会には保育園の方に行き、園児と楽しくふれあうことが出来ています。
その人らしさを大切に、安心して暮らしていただけるように支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな環境にある事業所の玄関では、手入れの行き届いた季節の花々が出迎えてくれる。事業所には法人本部や介護老人福祉施設、老人保健施設等を併設されており、緊急時には相互の協力体制が築かれている。管理者と職員は和やかな良好な関係で、利用者へのサービス提供時や職員同士の会話する姿から笑顔が絶えない様子を伺うことができる。利用者の希望をまとめた「想いマップ」を作成し、一人ひとりの思いに沿った個別支援を実践している。また、利用者はゆったりと穏やかな生活の中にも、食事の下準備や片付け等の役割や目標を持って暮らしている。また、隣接している法人本部や介護老人福祉施設等の老朽化により、近々移転が計画されており、これまでの実績等を活かし新たな場所での高齢者福祉の推進を期待することができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あいじゅ

(ユニット名) 愛ユニット

記入者(管理者)

氏名 武智 玉美

評価完了日

平成 26 年 8 月 22 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員同士で話し合い、尊厳・地域との交流、安心した暮らしが遅れることを目標にし、少しでも地域の人たちとのふれあいを大切に、笑顔のある暮らしが送れるよう支援を行っている</p> <p>(外部評価) 事業所独自の理念を職員間で話し合い作成しており、大切に受け継いでいる。理念のほか、毎年事業所の目標も作成している。事業所内に掲示している理念等を職員各自で確認するなど、理念に沿った運営ができているか振り返りをする機会がある。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 荏原公民館での活動、みなみ保育園の園児来訪、敬老会に参加しながら交流を深めている。お誕生会には地域の方とカラオケを楽しみ、なじみの関係が築かれていけるよう支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 併設の介護老人福祉施設等と合同で行事を開催しており、地域住民と一緒にカラオケを楽しむなど、顔馴染みの関係もできてきている。開設時から近隣の保育園児の訪問など行き来があり、クリスマス会などに参加することを利用者は楽しみにしている。馴染みのお好み焼き店等の閉店や、利用者の高齢化に伴い継続してきた美化運動への参加が困難になってきたが、事業所で喫茶を開催し、地域住民を招待して交流を図るなど、できることを工夫しながら地域の一員としての活動をしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 推進会で、みなみ保育園との交流の様子をみていただいたり認知症、認知症予防について講師の先生を招いて勉強会と一緒に参加していただいたり、介護予防教室にも積極的に参加し、一人でも多くの人に理解していただくよう努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回開催している。近況報告や取組等を報告している。テーマにそって話し合い、意見やアドバイスが得られ、職員にも周知徹底し、サービスの向上につなげている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員、保育園長、地域住民等に参加協力を得て開催している。会議では事業所の活動などの報告をするほか、認知症や看取りなど専門知識をテーマとした勉強会を開催したり、地域との交流から関係が深まった宮司に講話をしてもらったりするなど、ユニークな取組みを楽しみにしている参加者もいる。参加者から毎回貴重な意見が聞かれ、事業所の運営に反映したり職員の励みに繋がっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 推進会や事業所の担当者会議等に参加していただき、情報を共有できるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所での利用者の実情を知ってもらうほか、サービス内容や感染症などのアドバイスももらっている。運営上の相談や介護保険の更新手続き等に窓口を訪れ、日頃から良好な協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) みんなで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、出入り口は出来るだけ開放しているが、見守りが不十分な時のみ閉めている。</p> <p>(外部評価) 現在、身体拘束の対象となるケースはなく、職員間で意識統一して、身体拘束をしないケアを実践している。身体拘束マニュアルを作成し、法人全体で身体拘束などの行為を正しく理解するための勉強会を実施し、特に利用者へきつい声かけにならないよう配慮した支援をしている。日中玄関は開放し、玄関ホールと共用部間のセンサーを活用しながら利用者が安心安全に生活を送れるよう見守りをして対応している。ユニット間は自由に行き来することができ、利用者の自由な暮らしを支援している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や勉強会等に参加し一人ひとりが正しく理解している。 職員同士、言葉での虐待になっていないか話し合い、注意し合いよいケアが出来るよう努力している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者の中に青年後見人制度を利用されている人もいるので、包括支援センターの方にお話し、推進会の時にみんなで勉強会を開き、少しでも理解できるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前に一度見学して頂き、気に入っていただけてから契約書・重要事項について説明を行い、理解・納得していただいた上で契約している。また、改定等の際はその都度説明し文章で同意書を頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関ホールには苦情箱を設置している。苦情が寄せられた場合には、マニュアルに沿って速やかに対応、回答を行っている。法人全体としても要望苦情解決委員会を開催し、頂いた要望苦情が反映できるよう努めている。面会時などに意見や要望を聞くようにしている。	
			(外部評価) 事業所内と外部に苦情受付窓口があることを入居時に利用者や家族に書面等で説明している。法人として利用者等の「苦情に関する委員会」を設けて、必要に応じて話し合いをしている。日常の生活の中、利用者から意見や要望を聞いている。また、利用者の日常生活の様子を便りや電話で伝えたり、面会時等の機会を利用して意見を聞くよう努めている。日頃から家族等から意見を言ってもらいやすい良好な関係づくりを大切にしている。家族からは利用者の健康維持や機能向上への要望が出され、利用者の個別ケアやレクリエーションに身体機能向上のためのリハビリ体操を取り入れるなど、迅速に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会で職員の意見を聞き、必要があれば主任会等で施設全体で話し合えるような仕組みになっている。 (外部評価) 管理者は夜勤を含め職員と一緒に業務をしており、職員とは日頃から気軽に意見や提案を伝えやすい関係ができています。管理者は職員の気になることや不安なことを察知し声かけするなど、職員一人ひとりの現状をよく理解している。また、職員同士で気になった場合は話し合いをしている。管理者は研修等の学びの機会を設けたり、勤務形態や勤務地など職員の希望を考慮し、職員がやりがいをもって働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課制度に従い、評価を行い一人一人の個性や能力の把握に努めると同時に、職員の処遇の改善に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内研修や、外部研修への参加を促し、研修後は事業所内において伝達研修を実施するよう取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 久谷地区のグループホーム連絡会での勉強会を行い、サービスに活かせるよう努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学の段階からゆっくと話し合いが出来るよう時間を持ち、徐々に本人の思いや不安を汲み取れるよう努めている。安心して暮らせるよう寄り添いコミュニケーションを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族様との連絡を密にすることにより、家族の思い、不安要望を聞き出し、それに沿って職員が尊厳を守りながらいい関係が出来るよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人、家族様の希望を聞き法人全体、他業種の方々の意見を聞き、様々なサービスの選択肢を提供し一緒に考え対応できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) おやつ作り、洗濯物干し・たたみ、お米洗い等して頂き少しでも役割が持てるよう支援を行っている。一緒にすることにより学ぶことも多い、一緒に外に食事に行ったり、喫茶店、ドライブ等出かけられるよう支援を行っています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 共同作品展と一緒に見に行かれたり、推進会や夏祭りに参加していただけるよう案内し、出来るだけ家族との絆がきれないよう支援を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の催し物や行事に出来るだけ参加したり、地域の方に遊びに来ていただいたりして、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、ご利用者に希望を聞きながら、出来る限り実現出来るよう支援を行っている。 (外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係や場所を聞き、把握している。把握した内容や行きたい場所などは「あなたの夢を叶えます」という取組みにより、娘に会いに行ったり自宅に帰ったりするなど利用者の希望を叶えている。また、併設の施設との合同行事などを通じて、利用者同士や地域住民との新たな馴染みの関係もできてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人一人が食堂やリビングで安心して座る場所が決まっています、トラブルになることはない。ティータイムの時は音楽やお話ししながら良い時間を過ごすことが出来ています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後は電話で話したり、推進会にも地域の方で参加していただき一緒にグループホームを盛り上げてもらっています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思いマップを作成し、職員間で共有している。本人の思いを大切にシプランに取り入れている。 (外部評価) 思いや意向を入居時に利用者や家族から聞き、詳細に把握している。把握した内容や新たに得た情報を利用者一人ひとりの「思いマップ」にまとめ、利用者や家族、職員の間で共有し、具体的な目標や課題を介護計画に反映し、利用者本位のサービス提供に努めている。思いを伝えることが難しい利用者には、何より安楽と安心を大切に考え、おだやかに過ごせることや利用者らしく生活が送れるよう、職員間で意見を出し合いながら検討し、一人ひとりの気持ちに沿えるサービス提供に真剣に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面談時に本人・家族様に生活歴や暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を聞いたり利用していた事業所からの情報提供をお願いし、共有している。少しでも多く情報を把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人利用者様と関わる中で心身状態、精神状態を24時間シートに書き入れ、職員同士で情報を共有している。毎日バイタルチェックし健康面にも気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 一人一人の思いマップを作成し、そこからプランにつなげている。プランの評価も1ヶ月毎に行い各ユニットで話あっている。本人の希望に沿ったプランを作成して実施している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望を反映し、職員の意見を取り入れ、利用者毎の担当者を中心に管理者と話し合い、介護計画を作成している。事業所独自の「思いマップ」にまとめられた課題は介護計画へ反映し、利用者や家族の思いに沿った分かりやすい計画となっている。また、24時間シートを使用し、日々実施したサービス内容や利用者の気持ちを記入できるなど、現状が詳細に把握できる記録となっており、根拠あるモニタリングへ繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) センター方式24時間シートを使って日々の様子や精神状態を記録している。職員間で共有しながらプランの評価も1ヶ月毎に行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外出や医療機関の受診等は、ご家族様の状況に合わせて必要な場合はホームの方で対応できるよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣のみなみ保育園との交流、遺跡めぐり、荏原公民館活動への参加等、一人でも多く地域に出かけ、地域の事を少しでも理解し、楽しむことが出来るよう支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時にかかりつけ医の希望を聞き、本人や家族の希望を大 切にしている。かかりつけ医へはホームの看護師から日ごろ の状態の報告をするとともに、かかりつけ医の指示が適切に 実践できるよう連携を取っている。 (外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を継続して受診することがで きる。協力医と連携が取れており、緊急時にも迅速に柔軟に 対応できることから、協力医をかかりつけ医としている利用 者も多い。受診は家族の協力を得るほか、職員が受診介助す る支援もしている。専門医は家族の協力を得て受診してい る。協力医には利用者の日々の様子を報告し指示を仰ぐな ど、健康管理もできている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員はホームの看護師・法人内の他事業所の看護師と連 携をとりながら健康管理を行っている。(24時間体制が取れ ている)何かあれば主治医に相談し早めの受診をするよう支 援を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院に面会に行ったり、家族の方より状態の連絡が ある。退院が近くなると病院に連絡を取り合っている。本人 にもみんな待っていることを伝え安心して入院生活が送れ るよう支援を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時にホームでのターミナルケアについて説明した上で、 ご本人・ご家族の意向に添った支援をしている。主治医と連 携をし、ご家族に悔いが残らぬよう努めている。 (外部評価) 「看取りに関する指針」を整備し、事業所として対応できる 内容を入居時に利用者や家族等に説明している。利用者の状 態に応じて、医師や家族等と話し合いを繰り返し、意向を確 認している。事業所では医療機関と併施設などの協力を得 て、チーム体制で看取り支援を経験している。また、看取り 等の勉強会も実施し、職員の不安の軽減を図ったり、知識や サービスの向上に努めたりしている。管理者は終末期ケアの 重要性を強く認識しており、経験を活かしたチーム体制での 支援の強化に今後も取り組んでいく予定である。	チーム体制で利用者や家族の意向に沿う支援の重要性 を再度認識すると共に、看取り支援を実施する中で職 員の不安や疑問点等の新たな気づきを職員間で話し合 い、今後の看取り支援に経験を活かすことを期待した い。また、看取りの知識など職員のスキルが向上でき るような勉強会を継続して実施することを期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年法人内で緊急時の処置の方法を消防署の指導を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回併設の事業所と一緒に防火避難訓練を行っている。 H26.5.12にグループホームでの夜間を想定した通報・避難訓練を消防署立会いのもと実施をした。毎月1日に通報訓練を実施している。	
			(外部評価) 年2回、併設している施設と一緒に消防署の協力を得て、夜間などを想定した防火非難訓練を実施している。毎月、通報訓練も実施している。災害発生時には併設の施設と相互の協力体制が取れているほか、地域住民を含めた緊急連絡網を整備し、協力体制を築いている。職員は利用者が安心安全な生活が送れるよう危機感をもって災害対策に取り組んでいる。また、法人として備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ホームの理念にも掲げ、一人一人の尊厳を守り、暖かい声かけを心がけている。居室やトイレに入る時はノックを行ったり、トイレには「使用中」札をかけたたりしている。入浴時も一人ずつ入っていただいている。	
			(外部評価) 「尊厳」という言葉を理念に掲げ、法人内では年間計画を立て接遇などの研修を実施しており、職員は理解して尊厳を意識した支援をしている。利用者への言葉づかいなど気になる対応は、その都度職員間で注意し合っている。特に入浴やトイレの介助時など、利用者の羞恥心に配慮した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で出来るだけ本人の気持ちを大切にしている。声えかけにも決め付けるような言葉かけをせず、あくまでも納得して決めていただくように支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースを大切にしている。食事の後ベッドで休みたい人、テレビ・本を読まれる人、その人の気持ちを大切にしている。出かけるときは家族に協力をお願いすることもある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 移動美容室には、ほとんどの人が利用している。外出時の服や帽子は、自分で選ばれたり職員と一緒に選んでいる。毎朝自分で化粧をされたり、アクセサリを身につけられる人もおられます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は併設の施設の厨房で用意していますが、ご飯・カレー・味噌汁・おやつ作りはホームの方で一緒に作っています。盛り付けや片付けなどは出来る方には手伝っていただき、少しでも役割が持てるよう支援を行っています。気分転換も兼ねて外食にも出かけます。	
			(外部評価) 法人の管理栄養士が献立を作成し、法人の厨房で一緒に調理している。ご飯や汁物、おやつ作りなどは事業所内で利用者と一緒に調理している。利用者の状態に合わせ、きざみ食などにする対応は事業所内で行っている。調査日には利用者が生き生きとした表情でおやつの下準備をする姿が見られた。職員は食事の後片付けなど利用者のできることに着目し、役割を持ってもらい、やりがいに繋がる支援を心がけている。また、利用者の希望や気分転換を兼ねて、回転寿司などの外食を楽しめる支援も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で個々の食事量、水分量を把握している。食事量が減った人には食事形態を変えたり、主治医、管理栄養士、家族様と相談しながらラコール等で対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時、毎食後の口腔ケアを行い、終わったら歯ブラシ・コップを良く洗浄し乾燥機にかけ感染予防に努めている。介助の必要な人は支援を行っている。歯や入れ歯の調子が悪いときは訪問歯科を利用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄リズムを把握し、声かけを行っている。気持ちの良い排泄がトイレで行え、自立に向け支援を行っている	
			(外部評価) 排泄時間や量、水分、食事量等を記録し、利用者の状態や排泄のリズムを把握している。利用者の訴えや表情、様子を見て、さりげなく声をかけて誘導し、トイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。オムツを使用している利用者にも体調を配慮しながらトイレで排泄してもらうよう努めている。職員は利用者の状態を把握し、一人ひとりに合わせた排泄支援を行い、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) チェック表で排便を確認している。排便を促すため、水分補給（1500cc以上）リズム体操、歩行練習に取り組んでいる。おやつにふかし芋等も取り入れている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 健康状態を把握しながら行っている。風呂場で職員が一人見守り介助を行い、ゆっくりと入ってもらっている。本人の希望も聞きながら支援を行っている。	
			(外部評価) ユニット毎の個別浴槽を使用し、週2回を基本として、利用者の希望や必要に応じて入浴できるよう支援している。夏場など汗をかきやすい時期には入浴回数を増やし、気持ち良く入浴してもらい清潔を保っている。入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、タイミングや声かけなど工夫している。利用者の状態に合わせた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間はほとんどの方が良眠されている。本人の希望で昼寝をしたい方は休んでもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬・飲み忘れしないように2人でチェックをし、本人にも確認をしてもらい慎重に行っている。薬の変更や気をつけること等は申し送りノートを利用し周知徹底をしている。処方箋もいつでも見られるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の生活の中で自分で出来ることはしていただき、少しでも自分の役割が持てるよう支援を行っている。外食・喫茶店・ドライブ等少しでも外出の機会を多くとり、気分転換が図れるよう支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の機会を出来るだけ多く取り入れたり、家族様と一緒に家に帰られたり食事に行けるよう支援を行っている。「あなたの夢を叶えます」を目標に本人の言ってみたい所、逢いたい人を聞き、叶えられるよう支援を行っている。ご家族様の協力もあり、一つ一つ実現している。 (外部評価) 月2回外出できるよう計画を立て、併設施設から福祉車両や運転手を手配し、外出できるよう支援している。カフェや回転寿司に出かけたり、季節に応じてコスモスや彼岸花などを見に行けるよう支援している。夏場や冬場の気候の厳しい場合には、事業所で喫茶を開催するなど地域住民と交流する工夫をしている。「あなたの夢を叶えます」という利用者一人ひとりの行きたい場所などを叶える取組みは継続して実施しており、娘に会いに行ったり自宅に帰ったりするなど、利用者の希望に沿った支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお小遣いを所持し、一緒に買物に行き支払いが出来るよう支援を行っている。家族様と話し合い、こちらで預かっている方もおられますが、可能な限り自分で支払いが出来るよう支援を行っています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望で家族に電話をかけられる場合は支援を行います。手紙を書かれる人は少なくなりましたが、少しでもやりとりができるように支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居者が集まるリビングにはソファを用意し、みんなでテレビを観たり、お話が出来るようになっている。食堂にはちぎり絵・工作等で季節感を取り入れている。西側にはへちまのグリーンカーテンで日よけを行っている。エアコンで温度調整を行っている。</p> <p>(外部評価) 玄関前で手入れの行き届いた季節の花々が出迎えてくれ、温かみが感じられ訪れやすい雰囲気が感じられる。前年収穫したへちまの種を育て、リビングの大きな窓にグリーンカーテンを作り、季節の楽しみとして話題にしている。共用空間は清掃が行き届き、近隣の自然豊かな景色を見ながら、ゆったりとくつろぎながら気持ち良く生活を送ることができる。また、座る場所は利用者同士の関係性や混乱が生じないよう配慮している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 食堂、リビングソファもそれぞれ自分の安心できる居場所があり、テレビを観たりお話をしたり家族様との会話の居場所になっている。食堂の椅子に座って静かに音楽を聴かれています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 今まで使っていたベッド・布団・タンス・家族の写真等を持ち込んでいただき、家庭的で馴染みの物があることで安心して暮らしていただけるよう支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 居室には利用者の思い入れのあるものを持ち込んでもらえるよう家族等に声をかけており、使い慣れた寝具や生活用品を自由に持ち込み、落ち着いて生活を送ることができている。職員が衣替えや清掃を行い、清潔感が保たれすっきりとした居室となっている。利用者や家族の了承が得られた居室には、思いを表記した「想いマップ」を作成して掲示しており、家族と思いを共有しながら生き生きとした生活を支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者様には出来ることはして頂くよう声かけを行っている。建物内部は手すりが有り、段差をなくしているので、安全に歩行することが出来ている。</p>	